

第13回

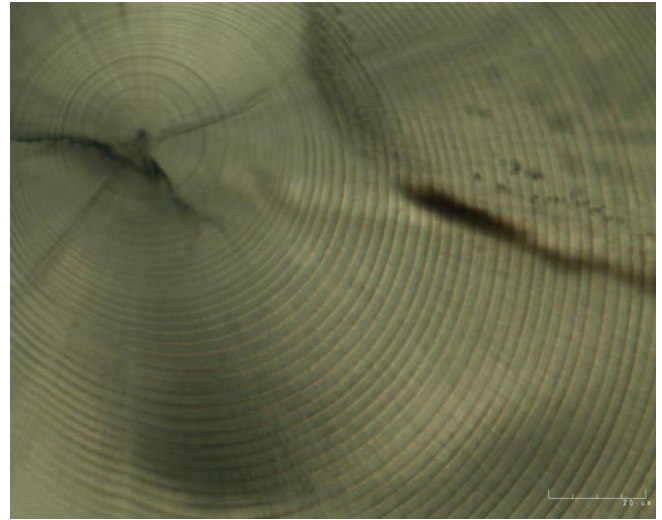
長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科
村瀬 偉紀

アユの生活史形質にみられる個体群内・個体群間変異

体サイズや成長速度などの生活史形質の地理的な変異の実態を明らかにすることは、分布域の決定要因や気候変動に対する応答を予測するうえで重要である。本研究では、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い気候帯に分布しているアユ (*Plecoglossus altivelis*) を対象として、分布域のほぼ全域から採集された個体について、耳石の解析によって生活史形質や経験塩分履歴の地域個体群内・個体群間変異を調べてきた。本セミナーでは、アユ個体群内にみられる生活史形質の変異に関する研究成果を紹介した後、生活史形質と成育場利用の地理的な変異、さらには、体サイズにみられた緯度クラインの海域差に関する研究成果を紹介する。



耳石（内耳に存在する炭酸カルシウムの結晶）の全体図



耳石核周辺の拡大図
木の年輪のように見えているものが日輪

3月5日（火） 17:00-18:00

琉球大学 亜熱帯島嶼科学拠点研究棟 3F 会議室

※ ご参加・聴講は自由です（事前申し込み不要）

お問い合わせ先：熱帯生物圏研究センター 矢口甫 hjiroo@gmail.com

主催：戦略的研究プロジェクトセンター ゲノミクス解析支援チーム